

大学間連携共同教育推進事業統計教育大学間連携ネットワークが主催、日本統計学会統計教育委員会、SAS Institute Japanなどが後援  
2013年世界統計年「統計教育シンポジウム」開催  
「記念事業」の一環として  
12月14日（金）池袋の立教大学にて「米国の大学における統計教育は？」



米国における最新の統計教育事情を聞くことができるとあって、参加者名簿を見ると大学の統計教育あるいは数学教育の専門家はじめ幅広い分野の方々の名前が並び、熱気に包まれたシンポジウムでした



司会の立教大学  
山口教授

青山学院大学  
美添教授

日本統計学会  
竹村会長

主講演者  
Roxy Peck 教授

SAS/JMP  
Curt Hinrichs 氏

愛知教育大学  
青山准教授

慶應義塾大学  
渡辺教授



カリフォルニア州立理工大学の Roxy 教授による  
「大学レベルの統計カリキュラムの教育と評価」



SAS/JMPの Hinrichs 氏による「統計カリキュラムにおけるコンピューティング」

平成24年12月14日（金）午後1時半から東京池袋駅近くの立教大学太刀川記念館にて、50余りが参加して、米国カリフォルニア州立理工大学の Roxy Peck 教授と SAS 米国本社 JMP 部門アカデミックマネージャの Curt Hinrichs 氏による「米国大学における統計基礎教育の実践と評価」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

主催者の大学間連携共同教育推進事業統計教育大学間連携ネットワークを代表して運営委員会委員長の青山学院大学の美添教授が挨拶、また日本統計学会会長の東京大学竹村教授が挨拶した後、早速 Roxy 教授による講演、続いて Hinrichs 氏による講演、最後に講演への質疑応答が行われ、午後5時前に終了しました。

# 《統計教育大学間連携ネットワーク》



文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業について説明する美添教授



日本の統計界を代表して、日本統計学会々長である東京大学大学院の竹村教授が挨拶を行いました。

主催者である文部科学省大学間連携共同教育推進事業「統計教育大学間連携ネットワーク」の公開講演会「米国大学における統計基礎教育の実践と評価」について、運営委員会委員長を務める青山学院大学の美添教授が開催主旨を説明しました。

「統計教育大学間連携ネットワーク」は、現在、文部科学省の肝いりで国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的としていることを紹介しました。

続いて登壇した日本統計学会会長の東京大学大学院の竹村教授が、今回の「米国大学における統計基礎教育の実践と評価」の講演では、米国大学における近年の統計教育の推進役でもあるRoxy教授直々のお話を聞くことができることを楽しみにしている旨挨拶をしました。

# 《米国大学における統計基礎教育の実践と評価》



本講演会の主講演者 **Roxy Peck** 教授はカリフォルニア州立理工大学の数理統計学部副学部長で、長年にわたり米国における統計教育を導いてこられました。

米国統計協会 (ASA) の統計教育部門の前議長、米国統計協会/米国数学教育協議会の確率・統計カリキュラム委員会メンバーで **Advanced Placement Program in Statistics (AP Statistics)** の AP 統計学試験の評価監督、教員養成に関する専門会議委員、日本での統計教育大学間連携ネットワークアドバイザーボード委員など幅広く活躍しておられます。

米国統計協会が中心となり進められている「大学での統計教育における改革の内容」を紹介頂きました。

統計を学ぶ目標の見直しに始まり、実データの利用や実践的な学習、単なる計算手法の習得にとどまらない統計に対する深い理解などが強調されていました。

また、評価に対する見直しも進んでおり、生徒の学習状況の評価だけでなく、授業内容や学習プログラムの評価も行われ、より質の高い統計教育を作り出していました。

初等・中等学校での統計教育の質も向上されることから、今後米国での統計教育全般のさらなる発展が期待されます。

# 《米国大学における統計基礎教育の実践と評価》



続いて登壇したSAS米国本社のJMP部門のアカデミックマネージャで前トムソンラーニング「応用統計・統計計算」部門編集長を歴任されたCurt Hinrichs氏には「統計基礎科目授業実践におけるICT活用の実際と教科書の構成」をテーマにお話頂きました。

「統計スキルは社会にとって必要か？」と言ったテーマで話し始めたHinrichs氏、パーソナルコンピュータの低価格化によりIT環境は大きく変化した結果、世の中はビッグデータ時代に突入し、統計能力は不可欠であると解説しました。

米国はじめ多くの国々がi-padなどのタブレットを統計教育に活用する方向にあり、韓国などでは戦略的に採用していることが紹介されました。

教育現場で簡単に統計手法を学ぶことができるものとしてSASのJMPプログラムのデモンストレーションを行い、日本のデータを活用した統計手法を披露するなど使い易さをアピールしました。

統計教育の現場でコンピュータと教科書が統合された形で活用されており、統計データなどの処理能力、活用能力が求められていると強調しました。

# 《米国大学における統計基礎教育の実践と評価》



最後の質疑応答では講演されたお二人に15分間にわたりかなり専門的な質問が続きました



質疑応答に応じる Roxy 教授と Hinrichs 氏と急遽通訳する愛知教育大学の青山准教授（左）



会場提供となった立教大学の正面玄関にある巨大クリスマスツリーを紹介する山口教授

最後にお二人の講演に対する質疑応答が行われました。英語で質問する方もあれば、日本語での質問もあり急遽、愛知教育大学の青山先生が通訳するなど、15分ほどに10件を超える質問があり、和やかな中にもかなり専門的な統計教育に関する質疑が取り交わされました。

終了前、会場提供元である立教大学経済学部の子口教授が昨年3月11日の東日本大震災への同大学での取組み、東日本大震災に隠れたもう一つの震災3月12日の長野県栄村の被災状況を統計で捉えた話を紹介し、最後に謝意を述べました。



午後5時前、会場の太刀川記念館の3階会場辺りには明かりが灯され素晴らしい雰囲気でした

会場となった立教大学太刀川記念館の3階ホールですが、三角屋根の素敵な建家外観は、クリスマスシーズンにぴったりの趣ある建物でした。

# 《米国大学における統計基礎教育の実践と評価》



Merry Christmas!!

立教大学正面玄関にある巨大なクリスマスツリーの前で記念撮影

**Japan Statistical Society**

レポート作成：前川 恒久  
QCサークル京浜地区・顧問  
日本品質管理学会・広報委員  
同 TQE特別委員会・委員